

日蓮大聖人の言葉から学ぶ：一切衆生に佛性あり
法華經を持たば必ず成仏すべし

心を結ぶ本泉寺通信

Musubi

Vol.13
2026
春彼岸号

日蓮が魂魄は
この身延の山中に留まるべし

梅神閣

春のお彼岸

春の風を感じながら
ご先祖様へ感謝のお墓参り

春のお彼岸

3月17日（火）～ 23日（月）

春季彼岸会法要

3月20日（金）10時より本堂にて

ペット献灯供養

3月20日（金）11時より本堂にて

塔婆供養 1体 4000円

献灯供養 1灯 2000円

◇先祖各位や水子

ペットの供養に献灯をお供えしましょう

●彼岸に「ひつじ善いじゆ」を

彼岸になると、私たちは自然と仏さまやご先祖のことを思い起こします。お供えをし、仏壇やお墓を整えて手を合わせる。そうした行いはいずれも尊い供養ではありませんが、仏教では、彼岸とは形ある供養を重ねるだけの期間ではなく、私たち自身の生き方や心の向きを見つめ直す大切な節目と説かれています。

そこで心に留めたいのが、「彼岸にはひとつ善いことをしてみる」という心がけです。特別な修行や大きな善行である必要はありません。誰かにやさしい言葉をかける、腹を立てそうな場面で一歩こらえる、家族や身近な人に感謝を伝える。あるいは、静かに題目を唱え、自分の心を見つめ直すこともよいでしょう。忙しさや感情に流されがちな私たちも、その小さな行いの中に、自分の心の傾き知ることが大切なのです。善いことを一つ意識するだけで心は不思議と落ち着き、周囲へのまなざしもやわらいでいきます。

今彼岸には、どうかそれぞれの生活の中で「これならできそうだ」と思える善い行いを、ひとつ心に定めてみてください。

その小さな実践こそが、仏さまへの供養であり、ご先祖への祈りであり、そして私たち自身を彼岸へと近づける尊い歩みとなることでしょう。

本泉寺開山四百年慶讃浄財奉納者芳名

令和7年12月 納入順

- 一口 八潮市 山田成利 様 五回目 計五口
- 有限会社ゴトウコンベヤー
- 五口 流山市 後藤慎介 様 二回目 計十口
- 一口 八潮市 津谷一安 様 二回目 計二口

令和8年1月 納入順

- 十口 八潮市 恩田勝廣 様 四回目 計三十三口
- 三口 八潮市 恩田一夫 様 四回目 計十二口
- 二口 三郷市 藤原 守 様 二回目 計三口
- 株式会社サンライズ
- 一口 富士見市 杉山 淳 様 三回目 計四口
- 八口 渋谷区 平野猛文 様 三回目 計二十四口
- 三口 足立区 横山菊枝 様 一回目 計三口
- 二口 足立区 和田好央 様 一回目 計二口
- 一口 八潮市 武井雪珍 様 一回目 計一口
- 一口 八潮市 緒方智恵子 様 四回目 計四口

引き続き皆様のご協力をお願い致します。

勸募期間 令和九年十月十二日まで
勸募金額 一口壹万円より

奉納者芳名

- 五回目 三郷市 恩田孝一 様 計十口
- 四回目 八潮市 山田成利 様 計四口
- 三回目 八潮市 恩田勝廣 様 計二十三口
- 八潮市 恩田一夫 様 計九口
- 八潮市 緒方智恵子 様 計三口
- 二回目 渋谷区 平野猛文 様 計十六口
- 株式会社ミユキ東京企画
- 流山市 後藤幸美 様 計六口
- 八潮市 恩田 操 様 計四口
- 株式会社サンライズ
- 富士見市 杉山 淳 様 計三口
- 八潮市 滝口義則 様 計二口
- 一回目 美浦村 山口朝三 様 計九口
- 有限会社ゴトウコンベヤー
- 流山市 後藤慎介 様 計五口
- 八潮市 滝口勝四郎 様 計三口
- 八潮市 恩田隆二 様 計三口
- 石川塗装株式会社
- 越谷市 石川智淳 様 計三口
- 春日部市 高橋真典 様 計二口
- 足立区 恩田明広 様 計二口
- 朝霞市 川端 登 様 計一口
- 葛飾区 恩田富美枝 様 計一口
- 三郷市 山後和義 様 計一口
- 八潮市 津谷一安 様 計一口
- 三郷市 藤原 守 様 計一口
- 墨田区 恩田 博 様 計一口
- 八潮市 井郷福治 様 計一口
- 草加市 板津由起 様 計一口
- 草加市 板津満知 様 計一口
- 松伏町 後藤ミユキ 様 計一口
- 松伏町 高田伊豆美 様 計一口
- 三郷市 齋藤よしの 様 計一口
- 株式会社ファブリケア
- 柏市 中田元茂 様 計一口
- 草加市 小原幸恵 様 計一口

合計百二十一口

令和七年十二月一日現在

いま、あらためてお釈迦さま

すべての仏道はこの覚りから始まりました

私たちが日々手を合わせている仏さまは、はるか古代インドの地に生を受け、一人の人として歩まれた存在でした。老い、病、死という避けることのできない人生の苦に深く向き合い、その根源を究めんとして求道の道に入られたのが、お釈迦さまです。

仏教のあらゆる教えは、この切実なる問いと、菩提樹下における覚りを源として展開してきました。今ここに、その尊き生涯を静かにたどり、仏の智慧と慈悲の原点に、あらためて心を澄ませて耳を傾けてみましょう。

#01 王子としての誕生



誕生

誕生直後に「天上天下唯我独尊」と唱え、右手で天左手で地を指した姿を表した像

お釈迦さまは、今からおよそ二千年前、インド北部カピラヴァストウ城において、釈迦族の王子としてお生まれになりました。名をガウタマシッダールタ、父は国王であるシュツドーダナ（浄飯王）母はマヤー（摩耶夫人）と伝えられます。

誕生に際しては、お釈迦さまは白象に化して母の胎内に宿り、産みの苦しみを与えないために産道を通らず、右の脇腹より生まれ出たとされます。

そして生誕したお釈迦さまは七歩歩いて右手で天を指し、左手で地を指差して「天上天下唯我独尊」と宣言されました。

誕生に際して、将来世の人々を導く大人物となる瑞相がいくつも現れたと説かれ、王子はやがて王位を継ぎ国を治める存在になると考えられていたのです。

しかし、父である浄飯王は、我が子が出家者となることを恐れ、世の無常や苦しみに触れさせぬように城内で手厚く養育したと伝えられます。

そこには、老いも病も、死をも遠ざけられた華やかで安穏な日々がありました。

#02 四門出遊 生老病死との対面



四門出遊

生老病死の無常に出会い、人生の根源的苦を知る

しかし、成長した王子は、ある日城外へと出る機会を得ることになります。

そこで目にされたのは老人、病人、亡骸と化した人、そして静かに修行に励む出家者の姿でした。この出来事は、仏教では「四門出遊」と呼ばれます。

王子は初めて、生老病死という人間存在の根源的な苦に直面されました。若さも力も、富も地位も、これらの苦から人を救うことはできない。その厳粛な現実には、王子の心に深い衝撃を与えました。

人はなぜ生まれ、老い、病み、そして死んでいくのか。この問いは、人生そのものを貫く根本問題として王子の内に刻まれたのです。

#03 出家 求道の第一歩



出家（出城）
王子シッダー
ルタ、生老病
死を離れ、求
道の道に入る

や がてシッダー
ルタは、王族とし
ての安逸な生活や地位
家族との穏やかな暮ら
しでは無常や苦を克服
できないと痛感し、こ
の世界の真理を追求し
ようと志し、将来の安
泰をすべて捨て、二十
九歳にして出家の道
を選ばれました。

それは決して現実逃
避ではなく、生老病死
という普遍的苦悩に真
正面から向き合い、そ
の根本原因を究めよう
とする、深い覚悟に基
づく選択でした。

この出家は、自らが
一人の修行者となるこ
とで、自らの安楽を離
れても真理を求め抜く
揺るぎない誓願と万人
に共通する苦の問題を
解き明かそうとする、
大乘的精神の萌芽とも
いえる決断でした。



苦行

苦行の中に覚り
はないと確信し
成道へと到る

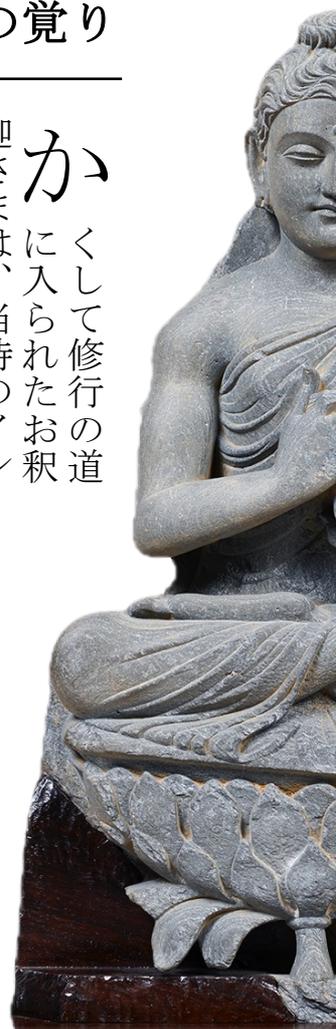
#04 苦行から成道へ 菩提樹下の覚り

か くして修行の道
に入られたお釈
迦さまは、当時のイン
ドで尊ばれていた厳し
い苦行にも身を投じら
れます。それは飲食を
断ち身体を極限まで痛
めつける修行でした。

しかし、命を損なう
ほどの苦行は、かえつ
て心を乱し、真理の探
究を妨げることになる
と気づかれます。

ここに、お釈迦さま
は快樂と苦行という両
極端を離れた「中道」
の重要性を見出されま
した。

中道とは、心身を正
しく保ち、智慧を開く



ための実践の道であり
後の仏教思想の根幹と
なる考え方です。

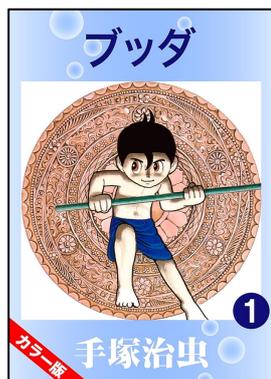
ナーランジャラー河
で身を清めた後、菩提
樹の下に坐し、深い禅
定に入られたお釈迦さ
まは、ついに無上正等
正覚を成就されます。

そこにおいて明らか
にされたのは、人生に
は苦があり、その苦に
は原因があり、原因を
滅すれば苦は滅し、そ
ののための実践の道があ
るといふ真理でした。

後に「四諦」として説
かれる教えの原型です。
この覚りによって、
シッダールタは迷いの
存在から、真理に目覚
めた「仏陀」となられ
ました。

ここに仏教は、その
第一歩を記すことにな
ります。

#05 教化の始まり 仏陀として生きる



手塚治虫「ブッダ」
お釈迦さまの一生を
描いた名作です。
是非お読みください。

様 々な出来事を通
じて成道された
後、お釈迦さまはしば
し沈黙されたと伝えら
れます。

それは、悟りの内容
があまりにも深遠で
人々に伝えることは困
難であると感じられた
からです。

しかし同時に、「こ
の教えを求める者が必
ずいる」との慈悲の心
が勝り、教えを説く道
を歩まれる決意を固め
られました。

こうしてお釈迦さま
は、仏陀として衆生済
度の生涯を歩み始めら
れます。

その教えは弟子たち
によって受け継がれ、
今日まで連綿と伝えら
れているのです。

次号に続く

〈連載〉

本泉寺見仏記

たもんでん

多聞天

第10回



多聞天立像
像高 三十六cm
奥行 十二cm
恵了院日頭上人造像

この経を受持し、読誦し、書写し、供養する国王
人民ある所に至りて、その国土を守護し、怨敵を
退散せしめ、財宝を増長し、人民を安穩ならしめん。

『金光明最勝王経』

護法施福の天王

多聞天は、仏教における四天王の一尊で、北方を守護する護法善神である。

「多聞」とは仏の教えを多く聞き、正法を正しく受持することを意味し、広く仏法を聞き分けて衆生を導く働きを象徴する名である。

後世においては「毘沙門天」とも称され四天王の中でも特に信仰の厚い尊格として知られている。經典においては『金光明最勝王経』や『仁王護国般若波羅蜜多経』にその名が説かれ、正法を信受し、經典を受持・読誦供養する国王や人民のも

とに赴き、その国土を守護し、怨敵や災難を退散させ、財宝を増長して世を安穩ならしめることを誓願する姿が示されており、多聞天の施財の功德は、単なる現世利益ではなく、仏法護持を根本とするところにこそ顕れるとされる点が重要である。

日本では、とりわけ武家社会において国家鎮護武運長久の守護神として信仰されるとともに、民間においても商売繁盛、家門繁栄、福徳増進の神として広く親しまれ、七福神の一尊として祀られるようになったことも、多聞天信仰の広がり物語っている。

像容は、甲冑を身にまとい、右手に宝棒や戟を

執り、左手に宝塔を捧げ持つ姿が一般的である。その勇壮な姿は外敵や魔障を退ける威徳を表す一方、衆生を見守る慈悲の眼差しも併せ持っている。仏法をよく聞き、正法を護る者に福徳と安穩を与えること誓った多聞天を拝することは、社会と国家の平和、そして安定した日々を願う行いにはかならない。

本泉寺の多聞天像は、第十九世恵了院日頭上人が四天王の一尊として勸請開眼した像である。明治二十年の本堂火災の際には、宗祖日蓮大聖人の尊像と共に檀信徒によって本堂より運び出され、火難を逃れている。

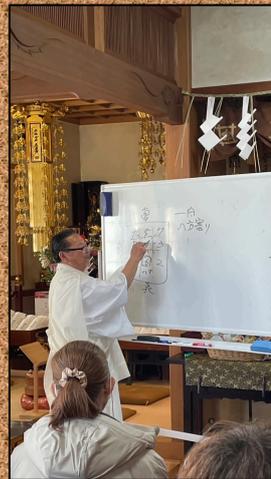
お寺の掲示板

新年星祭

開運祈禱会厳修

本年1月4日に恒例となった新年星祭開運祈禱会を厳修致しました。

当日は総勢18名の水行に始まり、三谷僧正の開運法話、修法師6名による木剣修法が行われ、参列された60名を超える檀信徒によって寒さを吹き飛ばすほどの熱気に包まれました。



床材のみが劣化をしている状態でしたので、板材を貼り、その上に新たな床材を貼り付けています。新しい床材は膝に優しい弾力のある床材を使用しています。

廊下の補修工事完了

本堂脇のトイレへ続く廊下の補修工事が本泉寺護持会協力のもと、無事完了致しました。床材の劣化によって歩きづらい廊下となっておりましたがこれで安心安全に歩けるようになりました。

ご協力に感謝致します。

日蓮大聖人の言葉から学ぶ

いつからしめじょう ぶつじょう

一切衆生に佛性あり

ほけきょう たも かなら じょうぶつ

法華経を持たば必ず成仏すべし

【松野殿御返事】

このお言葉は、全ての人が仏になる尊い可能性を持っていることを示された、日蓮大聖人の力強いお言葉です。「一切衆生」とは、すべての人々、すべての生きとし生けるもの、という意味です。つまり私たちは、善い人もそうでないと思われる人も、悩みや迷いの中にいる人も例外なく皆、仏になる可能性「仏性」をもって生まれている、というのです。

しかし、その仏性は、ただ持っているだけでは自然に現れるものではありません。そこで大聖人は「法華経を持つ」こと、すなわちお題目を唱え、法華経の教えを信じて日々の生活を送ることが大切であると教えられました。そうした信仰の積み重ねによって、多い私たちの人生も、やがて仏の智慧と慈悲に照らされた尊いものへと開かれていくのです。

このお言葉は「あなたのままでいい。あなたにも必ず仏になれる道がある」という、大聖人から私たち一人ひとりへの、深い励ましのお言葉であるといえるでしょう。

三月以降の年中行事

○春季彼岸会法要

三月二十日（金）午前十時

○春季彼岸会へツト供養

三月二十日（金）午前十一時

○願滿地藏菩薩例大祭

三月二十八日（土）午後二時

○開運大黒祭

四月二十日（月）午後二時

六月十九日（金）午後二時

茶坊主の 小部屋

●表紙は身延山久遠寺祖師堂「棲神閣」である。棲神とは「未来際までも心は身延山に棲むべく候」と遺言された大聖人の御魂が留まる事を指す言葉である。森閑なる御廟所とはまた違った雰囲気を持つ御堂で大聖人の息吹を感じる場所である。



第14号は令和8年夏発刊の予定です

発行



HONSENJI

日蓮宗 妙福山 本泉寺
埼玉県八潮市二丁目1472-1

TEL:048-996-9843

FAX:048-999-1884

mail:info@honsenji.jp